

2 経営学固有の特性

(1) 経営学に固有な視点

(2) 多様なアプローチ

5頁の2行目からの経済学的アプローチの部分(4行分)の差し替え原稿

例えば、第1に、経営現象に対する経済学的アプローチであり、古くはドイツの経営経済学、アメリカではマネジリアル・エコノミクスがあるが、近年、さまざまな対象を経済学的手法によって分析する領域が広がってきている。この経済学的アプローチは、「限定合理性」に基づき「効用最大化」を目指す行動仮定から企業の諸制度の形成と過程を分析する新制度派経済学である。新制度派経済学の接近はいくつかのアプローチがあり、取引コスト理論による組織的資源配分や経営戦略、エージェンシー理論によるガバナンスや人事労務、所有権理論による企業結合や企業の環境などの諸問題に対する分析である。